

みなとからのかぜ

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 / TEL 045-628-6100(代)

<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

●発行: 2008年9月 地域医療連携室

Contents

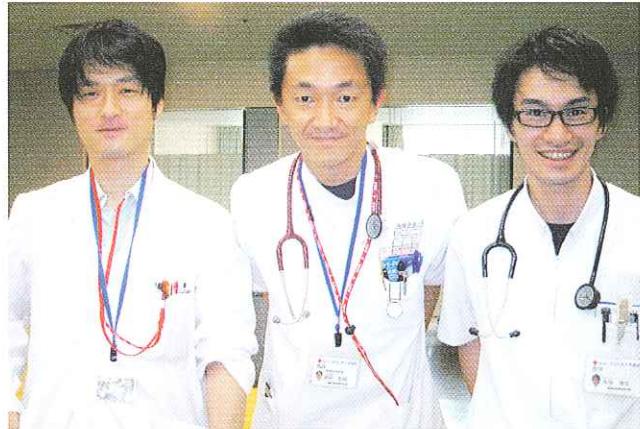
- みなとトピックス: 神経内科 1
- みなとトピックス: 循環器科 2

- 心臓手術体験記、新任医師紹介 3
- セミナー・講演会・登録医制度のご案内
3区医師会・みなと赤十字病院合同研究会 4

みなとトピックス

Topics 神経内科のご紹介

神経内科 部長 田中 宏明



神経内科

松本医長、田中部長、太田医師

地域の診療所の先生方、医療介護関係者の皆様方に
は日頃より大変お世話になっております。今回は神経
内科のご紹介です。

当院の神経内科は現在医師3名の小所帯ですが（少
数精銳？）、脳梗塞の急性期診療を一方の柱に、日夜
奮闘努力をつづけております。脳卒中診療では救急部、
集中治療部、脳神経外科との密接な連携のもとに脳梗
塞の超急性期（発症3時間以内）の血栓溶解療法にも
対応し、平成19年度は著効例も含め19件の施行実績
を有しています。昨年度の総入院数は393名で、うち
脳血管障害（脳梗塞および一過性脳虚血発作）は220

名と56%を占めますが、脳炎、髄膜炎、脊髄炎、てんかん重積状態、ギラン・バレー症候群、多発性硬
化症の再発、重症筋無力症のクリーゼ、ウェルニッケ脳症など様々な神経救急疾患にも多数対応しています。
また脊髄小脳変性症などの神経変性疾患、運動ニューロン疾患、末梢神経疾患などの精査・診断のための
検査入院も行っています。当院ではリハビリテーション科との密接な連携に加えて、脊椎外科、神経耳科（め
まい）、精神科の専門医との連携が可能であり、神経疾患の診療に最適の体制であると自負しております。

進行期神経難病で通院困難となられた患者さんに対しては、在宅医療の先生方に訪問診療をお願いする
と共に、状態悪化時の対応、再評価のための検査入院、短期入院リハビリテーション、胃瘻・膀胱瘻造設
時の内科管理などの支援を積極的に行ってています。

一方外来では、パーキンソン病、認知症、片頭痛などの機能性頭痛の診断と治療、てんかん患者さんの
継続治療に力を入れています。退院後の脳梗塞患者さんの再発予防には、内分泌代謝内科との連携のもとに
高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病を厳格に管理し、積極的に禁煙を指導し、状態安定後はか
かりつけ医の先生方にご紹介し継続診療をお願いいたします。

ADLとQOLに大きく影響することが多い神経疾患の診療において重要なのは、超急性期から慢性期まで
患者さんの生活を総合的に支援する視点であり、地域の関係者の皆様との密接な連携が何よりも重要です。
どうかご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

Topics “全国区”のプライドにかけて!

当心臓病センター内科（循環器科）の特色は、先ず「日本で最初に高周波カテーテルアブレーション治療に成功した。」という、不整脈診療におきましては先駆者の存在として全国区的に認識されてまいりましたことを挙げたいと思います。しかる故に全国から本治療習得のために数多くの医師が研修に訪れ、不整脈専門医として当科から旅立っていきました。その後も臨床研究の手を休めることなく活動しまして、現在では周知される治療法となりました「両室ペーシング治療」も、本邦臨床認可前より臨床導入を他施設に先駆けていち早く行い、重症心機能低下患者の治療に関しましても先駆者としてやってまいりました。現在の新病院に移行する際にカテーテルアブレーションに関する超ハイテク機器を、本邦でもかなり早期に導入いたしました、それを駆使した数多くの臨床経験を発表してまいりました。また心臓カテーテル室も旧病院の1室から3室へと増室していただき、緊急症例すらも同時に複数例で対応する緊急カテーテル手術を同時に2例行うこともあります。当科医師は「虚血班」と「不整脈班」に大きく分かれておりますが、全医師がどちらもこなせるように日々研鑽を積んでおります。

当科からは多くの和文、英文の学術論文や医学書も出版されておりまして、「みなど赤十字から出版された医学書で勉強した。」という多くの若い医師、研修医が当科見学に訪問します。

さて、最近の主な活動のひとつを御紹介いたします。CCT(Complex Catheter Therapeutics)という、毎年神戸で5000人の参加者があるライブデモ学会があります。そもそも全国で毎年約100近いライブ学会がありますが、このCCTは紛れもなく国内最大規模のライブデモ学会であります。これは、冠動脈部門、不整脈部門、末梢血管部門、心臓外科部門の4部門から構成されており、それぞれの分野で本邦でのトップクラスの施設から、リアルタイ

第一循環器科 部長 沖重 薫

ムで手術のライブ中継が神戸国際会議場に衛星中継され、手術中にいろいろとディスカッションするという、ある意味非常に緊張感のある学会です。第一循環器科部長沖重はこのCCT不整脈部門の代表責任者を務めており、毎年、当心臓病センター心臓カテーテル室からカテーテルアブレーション手術の衛星中継を行っており、特に若い専門医にとりまして教育的な活動として行ってまいりました。

さて、病診連携におきまして、診療所からの紹介をいただくための大きな基準としましては「信頼度の高くかつ高度レベルの医療サービス」が提供できるか否かではないかと考えます。そのためには臨床研究活動、学会活動を活発に行い、連携診療所の先生方から御信頼いただくことが最も肝要であろうと考えております。他の臨床科部門と大きく異なりまして、心臓系学会は非常に競争が激しく、例えば国内最大規模の「日本循環器学会総会」は発表演題が応募演題の約35%近くしか受理されません。国内学会で他の分野ではこのようなことはまずありません。当科は毎年本学会で多くの演題を発表してまいりましたし、なかでも超難関のシンポジウムでも発表してまいりました。因みに本学会の演題の多くは英語での発表であります。さらには国際学会での活動にも力を入れております、毎年米国で開催されます、不整脈部門世界最大の「国際不整脈学会」にも毎年研究演題を発表してまいりました。この学会の演題採択率は約20%であります、世界中の第一線級研究者との激しい競争を繰り広げながら発表してまいりました。

さて、当科は24時間365日間、循環器専門医が常駐しまして、連携診療所からの御要望のみならず、救急医療に関しましても、御要望にそえますように尽力してきました。今後も手を休めることなく、地域医療のために邁進していきたいと強くかつ熱く思っております。



毎朝行われるカンファレンスの様子



心臓手術体験記

心臓血管外科 部長 田渕 典之 (文責)

当院で心臓バイパスの手術を受けて退院された50代男性から手術体験談をお聞きしました。これから手術を受けられる方々への励ましのメッセージです。

●入院したときの状況は?

外出先で気を失って倒れました。緊急搬送先の病院では「検査は異常無し」でしたが、詳しい検査が必要と考えて赤十字病院を受診しました。

日頃残業の多い仕事なので、健康面の不安はありました。

●手術が必要といわれたときの心境は?

最初は逃げ出したい気持ちでした。

カテーテル検査を終え退院するつもりでした。

手術と言われショックでした。

●手術説明は分かりやすかったですか?

義母を心臓病で亡くしたので、手術の概要や危険性は理解していました。術前説明では、以前テレビ番組で見た心臓の知識と自分の検査結果を組み合わせて、一生懸命聞きました。1時間の説明を受け、先生を信頼して手術を受ける気持ちになりました。

●ナースなどスタッフの印象は?

仕事の関係で赤十字の仕事は良く理解していました。皆さんとても信頼できて印象は良かったです。先生も毎日何回も診察に来てくれて心強かったです。

●手術のことは覚えていましたか?

手術のことはあまり覚えていません。深い麻酔で2日間眠り続けたつもりで目覚めたら、まだ手術翌朝でした。痛みはありませんでした。あっけなく終りました。

手術後に滞在した集中治療室の充実した近代設備には驚きました。

●退院した感想は?

手術後1ヵ月経ち、寝返りをした時痛みを少し感じますが、すっかり元気になりました。思い切って手術して良かったです。

●病院に対する要望は?

非常に設備の整った病院で、医者や看護師等のスタッフも親身になってくれて、気持ちよく治療を受けることが出来ました。

今後も、多くの病気の人を治療してください。

●今後、心臓の手術を受ける患者さんへの応援の一言

手術前の不安はあるでしょうが、先生の説明を十分聞いて話し合うことです。

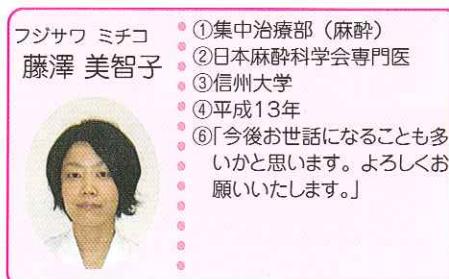
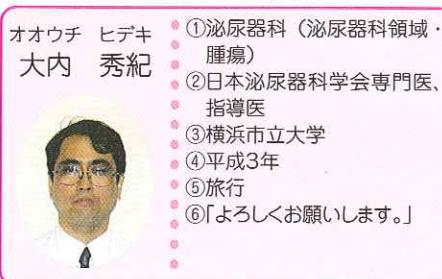
私は自分の選択した道に満足しています。

新任医師のご紹介

新しく就任した医師をご紹介させていただきます。今後地域の先生方と地域医療の連携を推進していくことを存じますのでどうぞよろしくお願いいたします。

＊＊＊ 質問項目 ＊＊＊

①診療科(専門領域) ②取得認定医 ③卒業大学 ④卒業年度 ⑤趣味 ⑥地域の先生方へ一言!



みなとセミナー・講演会のご案内

第5回横浜みなと免疫・アレルギー講演会



日 時：10月2日(木) 19:00～20:30

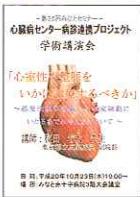
会 場：横浜市開港記念会館 1号室

テ マ：「日常診療におけるアレルギー性皮膚疾患診療のピットフォール」

講 師：大阪大学大学院医学研究科

教授 片山 一朗 先生

心臓病センター病診連携講演会



日 時：10月23日(木) 19:00～20:00

会 場：みなと赤十字病院 3階大会議室

テ マ：「心室性不整脈をいかに診療するべきか」

— 孤発性期外収縮から心室細動にいたるまでの考え方について —

講 師：都立広尾病院 副院長 桜田 春水 先生

第32回みなとセミナー アレルギー勉強会



日 時：10月30日(木) 19:00～20:30

会 場：みなと赤十字病院 3階大会議室

テ マ：「遠隔医療の現状と今後の課題」

講 師：岡山大学医学部・歯学部付属病院 総合患者支援センター
副センター長 岡田 宏基 先生

第13回 3区(中区・磯子区・南区)医師会・みなと赤十字病院合同研究会のご案内

本年も下記の日程で標題研修会を開催いたします。

業務ご多忙とは存じますが、是非ご参加くださいますようよろしくお願ひいたします。

日 時：平成20年11月13日(木) 19:00～

会 場：みなと赤十字病院 会議室

※詳細については別途ご案内いたします。



登録医制度のご案内

当院は、登録医制度をとっています。

ご登録いただきますと、高額医療機器のご利用が可能となり、セミナー等のご案内をさせていただきます。また、積極的な逆紹介などにより地域連携を深めていきたいと存じます。

多くの先生方のご登録をお願いいたします。

詳しくは

横浜市立みなと赤十字病院

地域医療連携

検索

<http://www.yokohama.jrc.or.jp>



紹介患者さんのお問い合わせご予約は地域医療連携課

電話 045-628-6365 (直通) / FAX 045-628-6367 (直通FAX)

E-mail : minato-renkei@yokohama.jrc.or.jp